

第6学年〇組 外国語科学習指導案

日 時：令和7年〇月〇日（〇）第5校時

場 所：1年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

A L T：〇〇 〇〇

1 単元名 NEW HORIZON Elementary 6 Unit 5 Where is it from?

2 単元について

本単元では、児童が自分たちと世界とのつながりを知るために、身の回りのものの生産国について、聞き取ったり紹介したりすることができるようになることを目標としている。Unit4で、児童は世界のいろいろな国について調べ、自分の行きたい国について詳しく考えている。本単元では、既習表現の「This is ～.」「It's from ～.」の表現を用いて、身の回りにあるものの産地を考えることで世界の国と自分たちの生活とのつながりについて友達やALTに紹介できるようにしたい。また（国）is in (大陸).を使ってその国についてさらに詳しく伝えることができるようにしたい。この単元は「from」や「in」を用いた表現に慣れ親しませると同時に、日本語と英語の文構造の違いに気付かせるのに適した単元である。

また、授業内に Small Talk を継続的に行うことで既習表現を振り返りながら、ペア活動やグループ活動を通して相手意識をもち、実際にクラスの友達と会話をする中で世界とのつながりについて協働的に学ばせたい。

3 児童の実態について<省略>

4 研究との関連

(1) 研究主題「英語で自分の思いや考えを主体的に表現することができる児童生徒の育成」

(2) 実現に向けての方策

① 自分の思いや考えを伝え合う活動（言語活動）を行う時間を多くする。

本単元でも Small Talk を計画的に行っていく。やり取りをする力を高めるために、既習表現を振り返らせながら、児童に本単元で必要な表現に慣れ親しませていきたい。やり取りを行う際には、相手に分かりやすく伝えるために、5manners (eye contact/clear voice / communication/ smile / good listening) を意識させていく。また、話を聞く時には反応 (reaction) することで、相手に配慮しながらお互いの思いや考えを伝え合うことができるようにする。

② 単元計画の作成をし、毎時間の指導計画の充実を図る。

身の回りの衣・食・住をテーマに世界の国と自分たちの生活とのつながりについて友達やALTに英語で自分の思いや考えを伝えるという単元ゴールを設定する。第1時から第5時で新出語彙・表現等のインプットを行い、第6時・第7時でアウトプットできるようにする。また、1人1台端末を使い、児童一人一人に振り返りをさせることで、児童の学習到達度を把握できるようにする。

③ 単元目標に向けて児童に必要な資質・能力を付けさせるための効果的な学習者用デジタル教科書の活用方法を研究し、実施する。

学習者用デジタル教科書を活用しながら、自己の学びを調整しながら課題に取り組む時間を設定し、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

④ 小中の円滑な接続を踏まえた指導方法の改善・充実（カリキュラムの作成）を図る。

音声で十分に基本の前置詞「from」「in」を使った表現に慣れ親しませることで、日本語と外国語の文構造の違いに気付かせ中学校の英語の学習に円滑に接続できるようにする。

5 単元の目標

友達やALTに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、伝えたい内容を整理し、身の回りにある「衣・食・住」に関する話を話することができる。

- ・身の回りにある「衣・食・住」に関することの表現の仕方を知って話すことができる。
〈知識及び技能〉
- ・友達やALTに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話している。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・友達やALTに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話そうとしている。
〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「発表」 (発)	<p><知識></p> <p>① 国、衣類、食材、文房具を表す語や It's from ～. It's in ～.の表現について理解している。</p> <p><技能></p> <p>② 国、衣類、食材、文房具や簡単な語句や It's from ～. It's in ～.の表現等を用いながら、自分の思いや考えを I like ～.I want to ～.It's ～.を使って話す技能を身に付けている。</p>	<p>友達やALTに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話している。</p>	<p>友達やALTに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話そうとしている。</p>

7 単元の指導と評価の計画 (8時間扱い)

時	目標 (◆) ・活動 (○)	評価			◎評価規準 (評価方法)
		知・技	思・判・表	態	
1	<p>◆単元の目標を理解する。</p> <p>◆自分たちと世界とのつながりについてのまとまった話を聞いて概要を捉えることができる。</p> <p>☆Small Talk “What vegetable do you like?”</p> <p>○Starting Out</p> <p>○Listen and Think</p> <p>○ALTの身の回りのものの紹介を聞く。</p> <p>○Let's Read and Write (自分の紹介したいものを決める)</p>				<p>終末の言語活動をイメージさせて、単元の見通しをもたせるとともに、意欲をもたせる。</p>
2 本時	<p>◆自分たちと世界とのつながりについて知るために、身の回りにある衣類・食材・文房具の生産国について話すことができる。</p> <p>☆Small Talk “What country do you want to go?”</p> <p>○教師やALTとのやりとりを通して、身の回りのものの紹介の仕方について見通しをもつ。</p> <p>○単元ゴールに向かってどんなことを紹介できるようになったらいいのか整理をする。</p> <p>○自分が調べてきたものの生産国について It's from (国) It's in (大陸名) を使って友達に伝える。</p> <p>○Word Link 国、大陸、衣類、食材、文房具の名前の言い方の表現を確認する。</p>				<p>2～6時は記録に残す評価は行わないが、国、衣類、食材、文房具の名前の言い方、from、inを使った表現が身に付いているかを見取り、児童の学習状況に応じて指導の改善を図る。</p>

3	<p>◆調べてきたものの生産国やその国の特徴についてさらに詳しくやり取りをすることができる。</p> <p>☆Small Talk “Where is it from?”</p> <p>○Watch and Think</p> <p>○デジタル教科書を使って、国の特徴を説明できるようにする。</p> <p>○You can～. / It is a () country.</p>				
4	<p>◆友達やA L Tに自分の身の回りのものの生産国やその地域を紹介するために、表現を振り返り情報を整理する。</p> <p>☆Small Talk “This is my ～ .”</p> <p>○デジタル教科書や児童用タブレットで身の回りのものの生産国やその地域について調べまとめる。</p>				
5	<p>◆友達やA L Tに伝わりやすい発表にするために発表の練習をする。</p> <p>○発表内容を整理しまとめ、タブレットでスライドを作る。</p> <p>○タブレットで単語や英文の読み方を確認し、発表練習を行う。</p>				
6	<p>◆友達やA L T に伝わりやすい発表にするために、自分の調べたものの生産国について、さらに詳しく紹介することができる。</p> <p>☆Small Talk “Where is your pen from?”</p> <p>○発表練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドでプレゼンテーションを行い、改善点をアドバイスしてもらおう。 ・友達のプレゼンテーションを聞いて、コメントや質問をする。 ・グッドモデルの発表を共有する。 ・グッドモデルや、もらったアドバイスを次のプレゼンテーションに生かす。 				<p>聞いている人に分かりやすく伝えるために、友達からの質問・アドバイスを参考にするように指導を行う。</p>
7	<p>◆友達やA L T に自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、伝えたい内容を整理しグループで発表する。</p> <p>○グループで発表を行い、動画を撮影する。</p>	<p>発 ① 発 ②</p>	<p>発</p>	<p>発</p>	<p>◎国、衣類、食材、文房具を表す語や It's from ～. It's in ～.の表現について理解している。〈動画分析〉</p> <p>◎国、衣類、食材、文房具や簡単な語句や It's from ～. It's in ～.の表現等を用いながら、自分の思いや考えを I like ～.I want to ～.It's～.を使って話す技能を身に付けている。〈動画分析〉</p> <p>◎友達やA L Tに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話している。〈行動観察・振り返り〉</p> <p>◎友達やA L Tに、自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、簡単な語句や表現を用いて身の回りにある「衣・食・住」に関することを話そうとしている。</p>

					〈スライド・振り返り〉
8	◆世界のことを知るために、映像や音声を手がかりにして、日本と世界との交流の歴史などについて考え、日本と世界とのつながりに対する理解を深める。				
	○世界探検				
	○物語探検				

8 本時の学習指導（2/8時間）

（1）目標 自分たちと世界とのつながりについて知るために、身の回りにある衣類・食材・文房具の生産国についてやり取りをすることができる。

（2）本時の展開

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	○挨拶 ○歌 “One Big World” ○Small Talk “What country do you want to go?” ・自分の行きたい国について友達伝え合う。	・既習表現を使い、日付、天気などを英語でやり取りする。 ・学習の雰囲気をつくる。 ・本時の活動で使用する既習表現を思い出させる。
展開 30分	○ALTとのやり取り ・ALTの紹介するものについて生産国などについてやり取りをする。 ○自分が調べてきたものについて即興で友達に伝える。 ○Goal（めあて）の確認	・その後の活動につながるように、児童の表現を引き出していく。 ・どんな内容を伝えたかを確認する。その後、どんな内容を伝えたかったか、どのような内容を伝えた方が良かったかについて、ペア⇒全体で確認をし、黒板に整理をする。 ・本時のゴールに迫る表現を児童から引き出すために発問の仕方を工夫する。 ・今日の授業のめあてを確認する。
	Today's Goal ：自分たちと世界とのつながりを知るために、身の回りにある衣類・食材・文房具の生産国について紹介できるようになる。	
	○生産国や大陸名を伝えるにはどうしたらよいかペアで確認をする。 ○全体で、生産国や大陸名の言い方を確認する。 ・ This is ～. ・ It's from（国） ・ It's in（大陸名） ○タブレット等を使いながら自分の調べてきた6個のものを紹介できるように準備する。 ○自分の調べてきた6個のものについてペアを変えて2回紹介し合う。 ○中間指導 ○もう一度紹介し合う。 ○（時間があれば）代表のペアのやり取りを見る。	・机間指導を通して、紹介の表現が止まってしまっている児童の支援をする。 ・ from や in を適切に使えているかや、大陸名等も正しく伝えてきているかに注意して聞く。必要であれば中間指導を行う。

ま と め 5 分	○まとめ ・学習内容のまとめと、次回予告を行う。 ○振り返り ・自己評価をして目標に対する到達度を確認する。	・単元ゴールを再度意識させ、本時の学習をゴールに結び付けられるようにする。
-----------------------	---	---------------------------------------

9 板書計画

Unit 5 Where is it from?

Unit's Goal : 友達やALTに自分たちと世界とのつながりについて知ってもらうために、伝えたい内容を整理し、身の回りにある「衣・食・住」に関する話を話せるようになるろう！

Today's Goal : 自分たちと世界とのつながりを知るために、身の回りにある衣類・食材・文房具の生産国について紹介できるようになるろう。



- Greeting
- Small Talk
- Activity
- Review
- Closing

① It's from _____. ② (国) is in (大陸).

Wednesday
October
22nd